

水稲 (C3型) とトウモロコシ (C4型光合成)

-地球温暖化対策?-

https://l-hospitalier.github.io

2021.8

【光合成】 植物の光合成は太陽エネルギーを固定する唯一の方法で、全ての生物はエネルギー取得をこのシステムに依存する。 光合成には明反応(light reaction)とカルビンとベンソンが解明した暗反応(dark reaction、右下図)があり前者が光エネルギーの固定、後者が糖合成を担う。 明反応は光化学系 I (PS I) で 700 nm 以下の波長の光で NADP+を NADPH に変換、光化学系 II (PS II) で 680 nm 以下の波長の光で H_2O から電子を取り去り H^+ (と O_2) を生成、NADPH と ATP を産生する。 暗反応の収支は NADPH と ATP を使って 6 CO_2 +12 NADP+18ATP O_6 H $_{12}O_6$ H+12NADP $^+$ +18ADP+18Pi。 明反応からの最終的収支は O_2 +12 NADP+18ATP O_3 +10 【RuBisCo、ルビスコ】 リブロース-ビスリン酸カルボキシラーゼ/オキシゲナーゼ(riburose-1,5-bisphosphate

carboxylase/oxygenase)は地上で最も多いタンパク質で暗反応(カルビン回路)の CO_2 固定の中心。 【C3 型と C4 型植物】世界 3 大穀物はトウモロコシ、小麦、米。 この中ではトウモロコシだけが C4 植物で他は C3 型。 イネ科植物のトウモロコシやサトウキビは 28 $^{\circ}$ $^{\circ}$ 上の高温乾燥で効率よく CO_2 を吸収、 O_2 と糖を産生。 28 $^{\circ}$ $^{\circ}$

分子より高効率。 1950~60 年にコーチャックとカルピロフによりカルピン回路の前段階に炭素 4 原子(C4)のオキサロ酢酸を経由する CO_2 を濃縮、固定する回路が示され、1966 年に MD ハッチ(豪)と CR スラックにより詳細が明らかになった。カルビン回路だけで糖合成する植物はルビスコにより 5 炭素のリブロース 1,5-ビスリン酸に CO_2 が結合して 2 分子の 3-ホスホグリセリン酸(3 炭素)を生成するので C3 植物と呼ばれる。 C4 植物でも CO_2 固定はカルビン回路によるが、前処理として柵状葉肉細胞のホスホエノールピルビン酸(PEP)カルボキシラーゼで CO_2 を PEP に結合して 4 炭素のオキサロ酢酸を合成(植物によってはリンゴ酸に変換)、維管束鞘細胞へ輸送す

リンゴ酸やオキサロ酢酸は維管束鞘細胞でリンゴ酸デヒドロゲナーゼにより CO₂を放出。 維管束鞘細胞にはルビスコ(カルビン回路) があり糖

(A) C₃植物の葉の細胞配列 柵状葉肉細胞はルビスコ を持ちCO2をRuBPに固 定して3PGを産生する 維管束鞘細胞は葉緑体を少数 しか持たずルビスコを持たな い。CO2を固定しない 海綿状葉肉細胞 下部表皮 (B) C4植物の葉の細胞配列 葉肉細胞はPEPカルボキシラーセ いう酵素を持つ。この酵素は COoとPEPの反応を触媒し、4歳 素分子オキサロ酢酸を産生する 維管束鞘細胞はルビスコを持ち、 ルビスコはRuBPとオキサロ酢酸 から遊離したCO2との反応を触媒 葉肉細胞と維管束鞘細胞は近くに

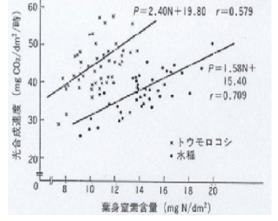
なる

存在するので、CO₂の葉肉細胞から維管束鞘細胞への移行が可能と

の合成を行う。この前処理系により C4 植物では高温乾燥時に気孔を閉じてもカルビン回路に持続的に CO₂ を供給できる (C4 植物は維管東鞘細胞が発達しており見た目に葉脈が太い)。 C4 植物は高温乾燥に強くトウモロコシは熱帯、亜熱帯の主要穀物。 小麦や水稲も PEP の遺伝子配列を持つの

で C4 経路の起源は古いと思われ、 進化の過程での選択であろう^{*1}。 右は C4/C3 の比較。 乾燥に強い サボテンなど多肉植物で CAM 型 光合成 (Crassulacean Acid Metabolism) を行う植物もある。

*1 EU は 3 to 4 project で稲の C4 化を研究中。



#290